

# Asia Indicators

発表日: 2023年3月31日(金)

豪州、インフレ鈍化も引き続き目標超えが続く(Asia Weekly(3/24~3/31))

～インフレ率、コアインフレ率ともに中銀目標を大きく上回る推移が続く展開～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹(Tel:050-5474-7495)

## ○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
3/24(金)	(台湾)2月失業率(季調済)	3.58%	--	3.60%
3/27(月)	(香港)2月輸出(前年比)	▲8.8%	--	▲36.7%
	2月輸入(前年比)	▲4.1%	--	▲30.2%
3/28(火)	(豪州)2月小売売上高(前月比・季調済)	+0.2%	+0.1%	+1.8%
3/29(水)	(豪州)2月消費者物価(前年比)	+6.8%	+7.1%	+7.4%
	(タイ)金融政策委員会(政策金利)	1.75%	1.75%	1.50%
3/31(金)	(韓国)2月鉱工業生産(前年比)	▲8.1%	▲8.3%	▲13.0%
	(中国)3月製造業 PMI	51.9	51.5	52.6
	3月非製造業 PMI	58.2	--	56.3

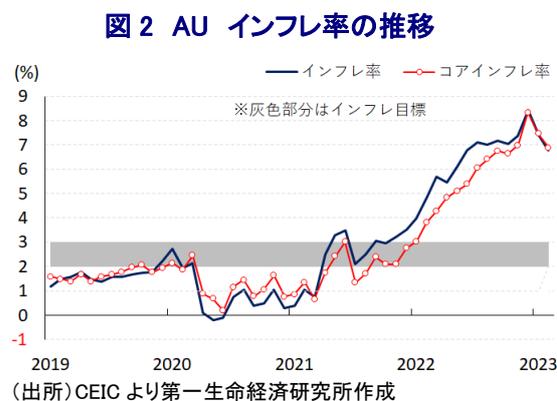
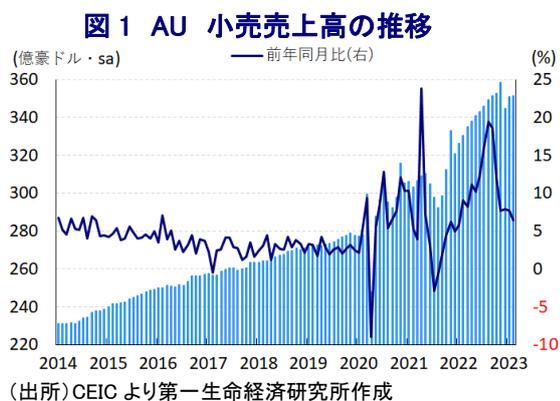
(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

## [豪州]～インフレ率、コアインフレ率ともに伸び鈍化も目標超えが続く、財価格に押し上げ圧力がくすぶる展開～

28日に発表された2月の小売売上高(季調済)は前月比+0.2%となり、前月(同+1.8%)から2ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きが続いている。食料品関連のみならず、日用品や高額品、外食関連など幅広い分野で消費に底堅い動きが確認されており、物価高と金利高の共存により家計部門にとっては実質購買力に下押し圧力が掛かりやすい状況にあるものの、足下の雇用環境は引き続き改善基調で推移している上、それに伴い賃金上昇圧力が高まっていることも家計消費を下支えしているとみられる。

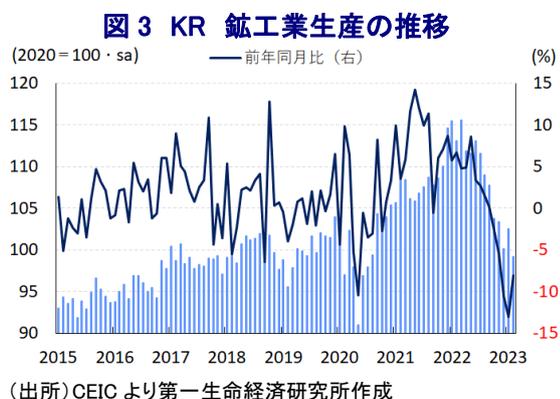
29日に発表された2月の消費者物価は前年同月比+6.8%となり、前月(同+7.4%)から鈍化して8ヶ月ぶりの伸びとなっている。ただし、前月比は+0.17%と前月(同▲0.42%)から2ヶ月ぶりの上昇に転じており、生鮮品を中心とする食料品価格が上昇に転じていることに加え、ガソリンをはじめとするエネルギー価格も上昇の動きを強めるなど、生活必需品を中心にインフレ圧力が強まっていることが影響している。なお、月次ベースの消費者物価については食料品やエネルギーなど物価の変動が大きい分野を除いた指数をコアインフレ率としているが、当月は前年同月比+6.9%と前月(同+7.5%)から鈍化して3ヶ月ぶりの伸びに鈍化している。前月比は+0.00%と前月(同▲0.43%)から下落の動きに一服感が出ており、娯楽や宿泊関連などを中心に物価に下押し圧力が掛かる動きがみられる一方、エネルギー価格の上昇に伴う輸送コストの上振れに加え、国際金融市場における豪ドル安を受けた輸入インフレも重なり幅広く財価格に押し上げ圧力が掛かる動きが続いている。また、依然としてインフレ率、

コアインフレ率ともに中銀（豪州準備銀行）の定めるインフレ目標（2～3%）を大きく上回る推移が続いている。



### [韓国]～世界経済の減速懸念の高まりが輸出財関連を中心とする生産の重石となり、全体的に頭打ちが続く～

31日に発表された2月の鉱工業生産は前年同月比▲8.1%と5ヶ月連続で前年を下回る伸びとなるも、前月（同▲13.0%）からマイナス幅は縮小している。ただし、前月比は▲3.2%と前月（同+2.4%）から2ヶ月ぶりの減少に転じている上、中期的な基調も減少傾向で推移するなど頭打ちの動きが続いている。鉱業部門のほか、建設業部門や公益関連部門などで生産活動に底打ち感が出る動きがみられるものの、製造業部門における生産活動が弱含む展開が続いていることが全体の重石となっている。主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連のほか、電気機械関連、自動車をはじめとする輸送用機械関連など輸出財を中心に生産に下押し圧力が掛かる展開が続いており、世界経済の減速懸念の高まりが生産活動の足かせとなっている。



### [台湾]～経済活動の正常化が進んでいることを追い風に、幅広い分野で雇用を取り巻く環境の改善が続く～

24日に発表された2月の失業率（季調済）は3.58%となり、前月（3.60%）から0.02pt改善している。失業者数は前月比▲0.2万人と前月（同+0.0万人）から2ヶ月ぶりの減少に転じており、中期的な基調も減少傾向で推移するなど調整の動きが進んでいる。既卒者、新卒者問わず全般的に減少の動きが続いている上、会社都合による失業者数も減少傾向が続くなど企業部門を取り巻く状況が改善している様子がうかがえる。一方の雇用者数は前月比+2.3万人と前月（同+2.6万人）から6ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向に転じるなど底入れの動きを強めている。分野別では、鉱業部門や製

造業部門、建設業部門などで底打ちの動きが出ているほか、これまで堅調な動きが続いているサービス業においても底入れの動きを強めており、なかでも金融関連や運輸関連、観光関連、IT関連など幅広い分野で改善の動きが確認されるなど、経済活動の正常化の動きが景気回復を後押ししている。

図4 TW 雇用環境の推移

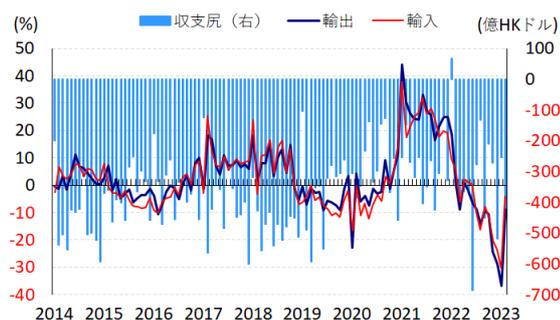


(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

### [香港]～中国本土のゼロコロナ終了に春節連休の終了も重なり、輸出入双方に底入れの動きが出ている～

27日に発表された2月の輸出額は前年同月比▲8.8%と10ヶ月連続で前年を下回る伸びで推移しているものの、前月(同▲36.7%)からマイナス幅は縮小している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比も5ヶ月ぶりの拡大に転じるとともに、中期的な基調も拡大傾向に転じるなど底入れの動きを強めている。中国本土におけるゼロコロナ終了に加え、今年は春節(旧正月)連休が前年に比べて大きく前にズレたことの影響も大きく押し上げられている。一方の輸入額も前年同月比▲4.1%と8ヶ月連続で前年を下回る伸びで推移しているものの、前月(同▲30.2%)からマイナス幅は縮小している。前月比も輸出同様に5ヶ月ぶりの拡大に転じるとともに、中期的な基調も拡大に転じるなど底入れの動きを強めており、経済活動の正常化の動きが輸出入双方を押し上げている様子がうかがえる。結果、貿易収支は▲453.65億HKドルと前月(▲253.73億HKドル)から赤字幅が拡大している。

図5 HK 貿易動向の推移



(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。